

# 前ねぶたが出来るまで（制作工程紹介）

前ねぶたとは、青森ねぶた祭に運行されるねぶたで、各運行団体の先導をする重要なねぶたであります。

前ねぶた制作は、大型ねぶた同様に下記のような制作工程に分かれております。

- ①題材と下絵
- ②細部の下ごしらえ
- ③小屋掛け
- ④骨組み・電気配線
- ⑤紙貼り
- ⑥書き割り（墨書き）
- ⑦ロウ書き
- ⑧色付け（彩色）
- ⑨台上げ・飾り

【※青森ねぶた祭オフィシャルサイトより】

今回の【ねぶた体験ワークショップ】では、上記工程⑤～⑨までを行い、完成された前ねぶたを運行します。  
過去実施された前ねぶた制作風景をもとに、簡単に作業説明をします。

## 前ねぶた作業工程

### ①紙貼り



骨組み（木材・針金）されたねぶたに、和紙（奉書紙）を使用する。針金に糊（木工用ボンド）で一区画ごとに貼り付ける作業である。場所によっては、カーフを描いたり、へこんでいたりする場所があり、高度なテクニックを要するが、一つ一つ慎重に作業していく。紙貼りされた骨組みは、かなりねぶたらしくなる。カッターを使用するので、怪我に注意しよう。

## ②書き割り（墨書き）



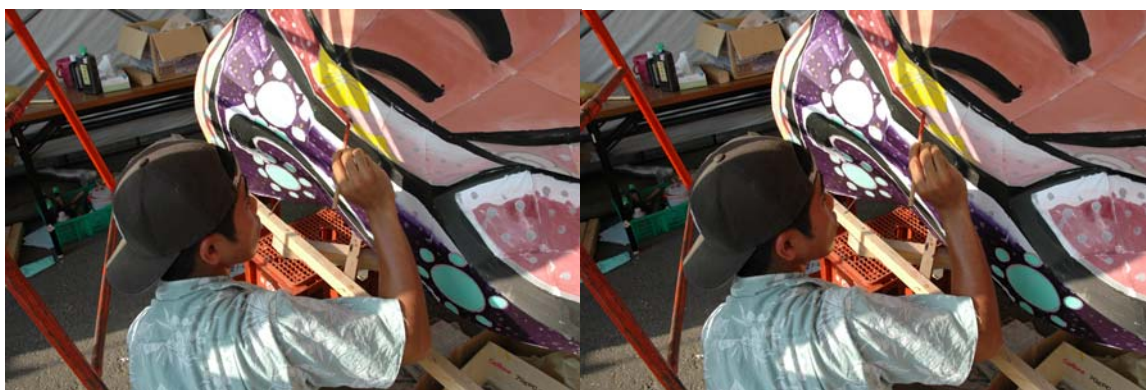
墨で形を取る。純白のねぶたに墨で顔や手足、衿、帯、着物の柄などを書き分けていく。迫力をかもし出す筆法で書き分けていく。書き割りされたねぶたは、紙貼りされたねぶた以上にねぶたらしさを纏い、迫力が増してくる。

## ③ロウ書き



着色の前に色の混濁を防ぐため、パラフィンで縁取り作業をする。この作業を怠ると、折角の色彩がまじりあって、色合いが悪くなってしまう。パラフィンは熱線ですくって使用するの、火傷に注意しよう。

## ④色付け（彩色）



残った白地に色をつける。染料と水性顔料を使い、筆書き又はスプレーで染色する。これでねぶたの本体は完成。

## ⑤ 台上げ・飾り



装飾の施された車つきの台（台車）に、ねぶたを上げる。これで全体の高さは3m位。

ねぶた師から「面の方向・バランス等の指示」を受け、運行出来るようになる。台車に高欄を付けたり、引き手が持つ前棒を布で巻き・団体名の看板取付・発電機の据付等々で出来上がり。

## ⑥ 運行



全ての準備が整い、青森ねぶた祭に運行します。自分達の手で作り上げたねぶたを運行する時は言いようの無い充実感と達成感を得る事が出来ます。

以前（社）青森青年会議所では今回のような前ねぶた制作運行を行っておりました。

年度	題材	参加者
2003年	幕張り五郎	一般市民
2004年	伊達政宗	一般市民、障害者、大学生
2005年		一般市民、障害者、大学生

またこの前ねぶた制作に参加した人が、実際にねぶた師の弟子入りし、現在ねぶた制作に携わっています。